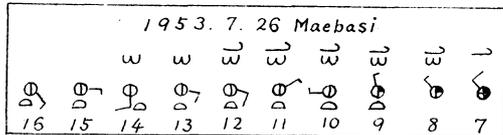


6 12 18h  
Maebasi

第2図 当日の館野の気温、湿度と前橋の風

の点も第3図と符合している。この雲がくらげ状に見えるのは内部に雲の無い部分を含むためである。特に注意すべきは第2図で600mbまでは湿度が40%以下で500mbから60%以上になっている点である。第3図により



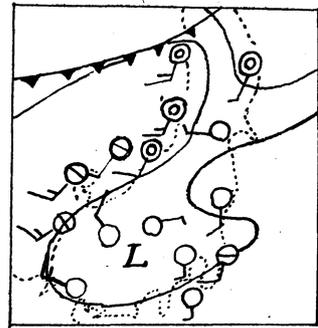
第3図 当日の前橋の天気変化図

### 西ドイツ (US 地区) の産業気象観測網

ドイツ連邦の気象事業は1945年5月8日の降伏によって占領軍の手に落ちた。以来ドイツの気象事業は各占領地区ごとに行われているが、人民のための気象事業の復興の状況を、そのうちの一つであるアメリカ地区の産業気象関係の観測網によってうかがうことにしよう。

US地区の面積は107,500平方kmで、わが北海道と四国を合したものに相当するが、ここに中央気象台のほかに各級の気象台、測候所、観測所が合計30個所以上あり、さらに農業気象研究所(2)、農業気象観測所(4)、衛生気候研究所(3)がある。この他に日本の観測所に相当する多数の部外委託の観測網が構成されている。

気候観測所199、雨量観測所1,488ということから日本の観測網の密度を比較することができよう。しかも



第4図 当時15時の上層天気図

9時から熱気泡が上昇して積雲を作っていることが察せられるが、この熱気泡は第2図から察するに乾燥したもので、それが前からあった高積雲の中に突入して、泡状に雲の無い部分を作り、それでくらげ状の雲ができたのだと解される。

このような雲は果して珍しいものかどうか。私は昨年の4月5日に富士山の八合目を登っているときに、眼の前にちょうどこのような雲がくらげのように泳いでいたが、カメラを出す暇もなく笠雲になってしまった。山本三郎氏の言によれば笠雲のできる前にはしばしば見られるものと云うことである。又今年の1月2日に私は八方尾根で不滞の嶮の上に同様の雲が非常に早く立ち昇っているように見えたが、この時もカメラを構えているうちに雄大な吊し雲になってしまった。この時はすぐ温暖前線の雲が続き、夜に雪となった。各山でこのような雲が見られるのは山による強制上昇気流が熱気泡の役目をしているのであろう。

なお私は前述のような外観や動き工合やしばしば見られることから云って、この雲に「くらげ雲」と云う変種名をつけるべきであることを提案する。(1954, 5, 20)

(中央気象台)

気候観測所のうち52個所は1881年からの観測が続いて居り、84個所では日本の観測所では行われていない地中温度の観測が行われている。なお1948年より981の墓地管理所に委託して、墓穴を掘った時に土壌凍結の深さを観測、報告して貰っている。また土壌水分は農業気象研究所など7カ所で週2回直接法により観測している。

戦前全ドイツに10,000個所以上あった生物季節観測所は、戦後US地区では100個所以下になったが、1946年に組織が再建され、現在は1,500個所になった。なお暴風雨・雷・洪水・干ばつなどの起った時にその被害を速報することを1,300個所に委託している。

(Mitteilungen des Deutschen Wetterdienstes in der US-Zone Nr. 16 による)